

とっとりエコサポーターズ養成講座を行いました！

6月2日(土) 東部：公立鳥取環境大学 学生センター2階 多目的ホール
6日(水) 中部：鳥取県中部総合事務所
9日(土) 西部：米子市福祉保健総合センター ふれあいの里

毎年恒例の養成講座。開会后、まずはエコサポーターズの活動内容や制度について確認しました。

確認①とっとりエコサポーターズとは、地域において地球温暖化の現状や対策に対する知識の普及・温暖化対策推進を図る活動を推進する人材として県知事が委託した、県内在住の方。

★活動の場は、温暖化対策についての相談に乗りたい情報を普及したい地域や学校でのファシリテーションや啓発、意志表明や提言などとさまざま！

確認②毎年度の活動は、翌年度4月10日までに活動報告をする。

★報告書は箇条書きでも写真を貼っていただくだけでも構いません。

鳥取県の地球温暖化防止事業の説明

鳥取県 生活環境部 環境立県推進課 板倉氏

鳥取県では地球温暖化防止のため、とっとりイニシアティブプランに基づき、NPOや黄木・企業等と連携・協働し数多くの事業が行われています。みんなのエコ宣言やクールシェア推進などの「環境全般」、ノーレジ袋や食べきり運動などの「廃棄物関係」、一木一石運動などの「環境保護関係」、とっとり環境杯などの「県民運動をさらに推進する取組」と幅広い分野で、どの取組も県民が参加しやすい活動を行っています。これらの活動はコミュニケーションの場となるだけでなく、鳥取県の魅力をより高めるものでもあります。



「地球温暖化対策と私たちのくらし・社会・SDGs」

講師：津山圏域クリーンセンター 所長 中平氏

このセミナーでは中平さんファシリテーターのもと、グループワークを行いました。4人グループを作りグループごとに自己紹介を行った後自分が思う最も解決すべき環境問題と、その理由を出し合いました。さらにその解決に向けた取り組みを地域の人の生活に取り入れてもらうための案も出し合い、グループごとに共有しました。



グループワークを進める中で、効果的な伝え方の工夫もいくつか紹介がありました。

ポイント

①分かりやすいこと(体験・実行したこと)を伝える

②最新の情報で

③資料は写真より動画、動画より体験、体験より議論
その他、具体的な会話の流れを例に紹介していただきました。我々エコサポーターズの活動で早速生かせそうな技ばかりでした！

最後に、持続可能な開発目標であるSDGsの紹介があり、さらにSDGsを他の人に伝えるための参考資料も配布していただきました。



地球温暖化問題の基本知識と最新情報 水素エネルギー社会絵への期待

講師：公立鳥取環境大学 教授 田島氏

温暖化が進み、このままでは生態系・食料・健康など様々な面で影響が危惧されています。温暖化の原因となる温室効果ガスは全6種類あり、その中でもCO2は、温暖化係数は低いものの排出量が最大であり、人為的に排出されているため排出量を減らすべきと言われています。

そこで温暖化防止の取組の一つとして水素を利用した発電の研究と、その活用事業が進められています。水素エネルギーは燃料電池の原理を利用したもので、事業としては燃料電池自動車(FCV)の開発・販売、水素タウン実証事業を行っています。カーボンニュートラル等でCO2排出削減を進め、製造時にCO2発生をコントロールしやすい特徴のある水素を用いた新エネルギーで成り立つ社会を目指して研究に努めています。



「企業から家庭まで燃費向上の極意」

講師：山陰エコライフ研究所 研究員 西村氏

企業や家庭の燃費向上のため、どこを対策すべきか、みなさんはご存知でしょうか？

《家庭の場合》

- ・待機電力の削減
(待機電力の大きなもの…ビデオデッキ、ガス給湯器、電子レンジ、温水便座等)
- ・家電の省エネ性能を知り、引き出すこと
- ・照明器具のLED化

《企業の場合》

- ・事業所全体の現状、エネルギー使用量等の把握
- ・全員参加で対応
- ・省エネと再エネの利用

省エネに向けて動くことも大事ですが、より効率よく省エネな暮らしをするには、まず現状を知ることが重要です。山陰エコライフ研究所では、ご家庭や企業で使った電力量を計測して見える化し、改善を提案(省エネ診断)しています。これを機に一度、電力量を見て知り、改善について考えてみてはいかがでしょうか。



脱炭素検定問題作りに挑戦！

午前のセミナー後、各自で温暖化や問題を作り、問題を出し合ったり、壁に貼ってそれぞれ解き合ったりしました。



「地球温暖化の現状と対策・ドイツのまちづくりから学ぶ」

講師：鳥取県地球温暖化防止活動推進センター 副理事長 山本氏

地球温暖化が進むなかで、私たち一人ひとりのエコ活だけでなく、暮らすだけでエコなまちづくりにも目を向けています。

2年間ドイツで過ごした経験から、帰国して気付いたことがいくつかあります。ドイツではどの家も窓が複層ガラスの電熱性の高い家になっていたり、スマートシティが確立されていたりと、住んでいれば誰でもエコな生活を送れるようになっていきます。

さらなる温暖化防止に努めるため、日々の情報収集は欠かせません。

